

# きずな

第4号 防災特集

平成 23 年 11 月 1 日

宮崎学区福祉委員会 発行

## 親子三代環境整備

宮崎小学校長 平岩 和博

八月二十一日（日）、天気心配される中、本校で親子三代環境整備をしていただきました。児童、保護者、本校職員、そこに朗進大学、生き生きサロンの皆さんの強力な応援をいただき、草取りや校庭の樹木剪定、さらには、校舎裏山の木々の枝打ちなどもしていただきました。本当にありがとうございました。

春から夏にかけては、草木がここぞとばかり生長し、運動場は、子どもたちが使用しない夏休みの間に草が生え、また、校庭にある樹木は、太陽の光を浴びながら、気温の上昇とともに枝を伸ばし、まさに、緑が襲ってくるかの勢いでした。本来ならば、学校の児童や職員で行わなくてはならないところを、たくさんの方々の応援をいただき、きれいに草取りや剪定をしていただきました。おかげで気持ちよく二学期を迎えることができました。

本年度は、児童数三十八名。昨年度の四十二名より四名少なく、掃除や環境整備が十分にできていない所があったと思います。児童数の推移を調べてみると、ここ数年は、四十名ほどで推移していき、児童の増加は期待できません。したがって、これからも現在の児童数や職員数で環境を整えていくことになり、行き届かない面が出てくると思います。学校では、できるだけのことを行っていきますが、今後とも、皆様方の本校へのご支援をよろしくお願いいたします。



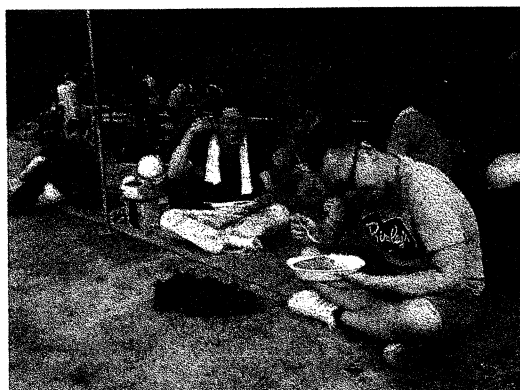
災害ボランティア一步の会額田 代表 加藤 勝彦

3.11の東日本大震災の生々しい映像が少なくなってきた6月に入ったころ総代さん、社教委員長さん、福祉委員長さんのおそろいの会議にお邪魔して、宮崎学区で岡崎市社会福祉協議会額田支所の主催で防災講座を開かせていただけないかと提案させていただきました。やはりあのような災害が発生した後なので、ぜひ開催してほしいとの返事をいただきました。



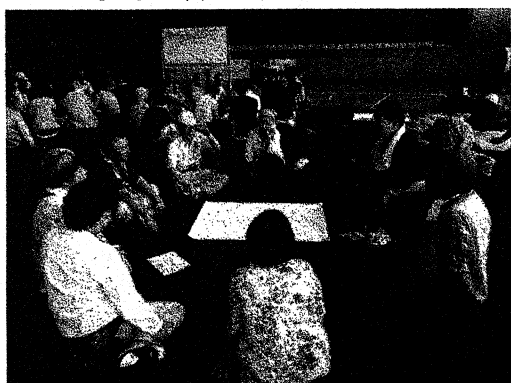
今回の講座では、「地域の助け合い」をテーマに取り組みました。小学校が夏休みに入った最初の土日で開催しました。昨年に引き続き猛暑の中、多勢の皆さんに参加していただきました。当初は時期や東日本大震災の被害が津波や原発の事故がほとんどであったため、この地域ではその両方あまり関係がないので、それほど関心が無いのではと心配しましたが、子どもからお年寄りまで多くの方に参加していただきました。想定は東海・東南海・南海地震が同時に発生し各地区に大きな被害をもたらしていることより、宮崎学区にも避難勧告が出されたというものです。

土曜日の午後1時より避難を開始し、近隣避難所に集まり住民の安否を確認していただきました。その後小学校に移動し、AEDの操作をはじめとする演習や、地震のメカニズムからボランティアに関する講座、そして阪本劇団「額田の風」による防災劇で家族の中で災害時にどうするかを考えていただきました。あたりは少し暗くはなりましたが、各町趣向を凝らしたカレーライスで炊き出しを行いました。そして、体育館の固い床で寝た1日目でした。



翌日は子どもたちや消防団の皆さんもたくさん参加され、防災カルタでゲームをしていただき、2日間で学んだことを元に防災標語を作成しました。

とても的を得た作品やユニークな作品が多くありました。真夏の2日間過酷な講座でしたが、多くのみなさんにご参加いただき本当に感謝しています。これからも、家族や町内会等機会があるたびに災害への対応を話題にしていいただければありがたいです。



私たちのグループは「災害ボランティア一步の会額田」といい、地域が災害にあったとき被災者の支援にやってくるボランティアと被災者の間をつなぐボランティアコーディネーターを本務として、日々災害やボランティアについて勉強しています。結成以来7学区で講座を開催してきました。

自分たちの活動は災害時に如何に被害を少なくすることもあります。まず災害のない町づくりを目指しています。みなさんも私たちと一緒に活動してみませんか。

## 風水害による被害の恐れのあるときの行動

### ●雨がたくさん降り続けると

がけ崩れ、土石流、地すべりなどの「土砂災害」が発生する恐れがあります。

宮崎学区では、建物への被害や命に危険が生じる恐れがあるため「土砂災害特別警戒区域」に指定されている地域があります。大雨が降って土砂災害の発生が予測される場合などは早めに避難しましょう。

### ●みなさんの身の安全を守るため、市から避難情報が流れます。

「自ら身を守る」ために、避難勧告や避難指示等の違いを理解しておきましょう。

川からの越水やがけくずれ等の恐れがある時、市から住民に対して、

「避難準備」…主に避難する時に時間を要する方への避難開始の案内

「避難勧告」…人への被害が発生する可能性が高まった場合の避難の案内

「避難指示」…人への避難が発生する危険性が非常に高いと判断されたときの

避難の案内

⇒このような、避難情報があったら指示に従ってください。

### ●避難時の行動は

- ① いざという時あわてないためにも、常にどこを通過してどこへ避難するかを家族や隣りの人達と話し合っておこう。
- ② 災害時は、普段通っている道でも慎重に歩こう。
- ③ 浸水しやすい箇所や土砂災害の危険のある場所の近くは通らない。
- ④ 頭上からの落下物や飛んでくる物にも十分に注意のこと。

### ●みなさんの避難所はここです

- ・ 旧千万町小学校 (風水害と地震時)
- ・ 宮崎小学校 (風水害と地震時)
- ・ 宮崎学区市民ホーム (風水害のみ)
- ・ 旧大雨河小学校 (風水害と地震時)

## 福祉講演会

広報研修部会 早川敏朗

学区福祉委員会と宮崎小学校保健委員会・PTA親子研修会主催の講演会を10月24日に、子ども家庭教育フォーラム代表 富田富士也先生（千葉県松戸市在住）をお招きして「子供を叱るな来た路じゃ 年寄り笑うな往く路じゃ」と題して開催しました。小学校の子どもも含めて約100名の参加者を得て和気あいあいとした中での講演会でした。

“はじめのいっぽは あまえから”

子供を叱る際は自分の子供時代を思えば、叱り方に優しさがこもる、他人の老いを笑う際も自分の老いることを思えば、笑い方にいたわりが出るということで、先生は冒頭、皆さん「還る家」がありますかと問いかけられました。人は安心して帰れる心の居場所が必要だが、わずらわしいのが人間関係で、向き合わなければそこから何も生まれてこない、向き合うから分かり合えると、言葉や行動の奥に心の声があり、言葉だけでなく、気持ちをわかってほしい「はじめのいっぽは向き合うこと」が還る家づくりになると話されました。

ご両親をたとえに、綾小路きみまろ風にジェスチャー交じりに会場内を歩き回りながら参加者に語りかけたり笑わせたりとユーモアたっぷりで、時には、BGMを流したり、全員で「故郷」を大合唱したりして、最後に人生のテーマは、「人と向き合ってあまえること」とまとめ、有意義で楽しいひとときでした。

### 学区福祉委員会の行事予定です

11月12日（土）	宮崎小学校学芸会	《宮崎小学校》
11月17日（木）	ふれあい部会 会食会	《高年者センター》
11月22日（火）	ふれあいデー	《宮崎小学校》
2月11日（土）	宮小音楽フェスティバル	《宮崎小学校》



冷え込む季節です  
健康に気をつけましょう  
皆様の参加を  
お待ちしております